

より良い行政を目指して!

行政管理局管理官
(外務・防衛・農水等担当)

吉田 光

「行革」を推進する立場でもある総務省

現在、消費増税の言わば環境整備としての「行革」が加速しようとしています。「自ら身を削る」ことの是非論はともかく、時代の要請に応じて行政を最適化するための取り組みである「行革」は、永遠の課題です。

「内閣及び内閣総理大臣を補佐し、支援する体制を強化する役割を担うものとして設置」され、「行政の基本的な制度の管理及び運営を通じた行政の総合的かつ効率的な実施の確保」というミッションを負っている総務省が、政府を挙げての「行革」に果たすべき役割には少なからざるものがあります。

私自身これまでに、様々な「行革」課題について、改革の推進側として、方針の策定や各府省庁との調整・折衝などを担当し、ドブ板を踏んだり綱渡りをしたりといったスリル(?)も味わいつつ、改革が実現した時の達成感も味わってきました。

バックグラウンドは「おかしいこと」を「おかしい」と言う仕事

とは言え、困っている人の助けになる「行政相談」って面白そうだな…と、採用された時には、こんなこと(?)になるとは夢にも思いませんでした。地方勤務の3年目に、今とは真逆の「増税なき財政再建」を旗印に、伝説の「土光臨調」が発足することになり、一連の人事異動の一番尻尾(!)として本省へ転勤になったことから人生は大きく変わりました(笑)。

そうした「行革」の仕事に関わることができたのも、「おかしいこと」を「おかしい」と言う、「政策評価」や「行政評価・監視」という仕事の「畑」のバックグラウンドがあったからだと思っています。行政評価局が有するこうした機能に対しては、「行革」を強力に推進するためにも、より一層の期待が高まっています。

キーワードは「変化への対応」

ちなみに、「土光臨調」が掲げた「行革」の観点の一つが「変化への対応」です。これは「行革」の本質を突いたキーワードであると同時に、これまでの私自身にも、そして、これから次代を担う皆さん自身が成長し変化を遂げていかなければならないという意味においても、良く当てはまるキーワードです。

これからの公務部門を取り巻く環境は益々厳しいものとなり、少数精鋭で乗り切らなくてはならない局面も多々予想されます。そういう中で、より良い行政を目指して、的確に変化に対応していける、そんな「変える力」や「変わる力」を秘めている「あなた!」、是非、一緒に仕事をしてみませんか。

PROFILE

昭和53年4月 行政管理局採用
中部管区行政監察局
秘書課
昭和56年4月 行政管理局長官官房
秘書課
平成18年1月 内閣官房行政改革
推進事務局
公務員制度等改革進室
企画官
平成19年4月 総務省行政評価局総務課
政策評価審議室長
平成20年2月 内閣府地方分権改革
推進室参事官
平成22年7月 総務省行政評価局
評価監視官
平成23年1月 現職

とある一週間

月曜日 担当2ラインと打合せ(今週が山場…)。定員査定を巡り、F省、A省の担当課長と数回目の折衝(タフなネゴをしつつも、収めの知恵を絞る)

火曜日 A省担当課長から状況報告(一点の光明が…)。原課課長から陳情(言いたいことは良く分かる。しかし…)。政務折衝案件の対処方針の局議。F省担当課長から朗報(ヤッター!)

水曜日 幹部検討。政務レク。A省との政務折衝に立会(実質決着にホッ♡)。夜、上京してきた旧友を囲む会合へ(酒もうまいぜ!)

木曜日 R庁の新設問題でA省関係課長へ協力要請。夕方、懸案のH案件についてA省からの連絡を受け、幹部へ報告。

金曜日 臨時国会会期末。D省設置法改正案が廃案となり幹部へ状況説明。F省担当課長が最終報告に。

土・日曜日 マンションの理事会で大規模修繕の打ち合わせ。池袋でかみさんと映画を見てから夕食の食材を買い出し。娘夫婦らと晩餐(今宵の酒もうまい)



海外出張で訪問した、在ラトビア日本大使公邸前で。